

## 2018 防災ウォッチ！2 第37回名古屋市防災展 ワークショップ ～

2018 ～ 心と体で防災マスター！ 身の守り方を考えよう ～

### ●第37回名古屋市防災展

#### 「防災ウォッチ！2」ワークショップ●

(日時) 2018年8月26日(土)

(場所) 名古屋市港防災センター

(対象) 未就学児・小学生

(人数) 午前 子ども14名+大人17名

午後 子ども24名+大人22名

(学生スタッフ) 5名

「防災ウォッチ」とは、災害が起こった時に危険となるアイテムや環境、または身を守ってくれるお助けグッズなどを妖怪キャラクター化した、子供向けの初等防災教育ツールのことです。平成28年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」での大学生部門の奨励賞受賞をきっかけにお声掛けいただいた名古屋市港防災センターから、今年もご依頼をいただきました。

子ども向けワークショップを担当させていただけることになったので、私たちは防災ウォッチの妖怪も登場する防災劇「ぼうさいものがたり」を考えました。姉妹で留守番中に地震が発生し、二人で知恵を出し合って避難所へたどり着くまでの物語です。途中、どんな行動をとればより安全なのか、子どもたちに2択クイズを出題し、正しいと思うほうへ移動してもらうことで飽きがこないよう工夫しました。また防災リュックの紹介も取り入れました。最後に内容がより定着するよう、先輩が考えた何が落ちたゲームをすることにしました。劇の内容を考える上で正しい知識を得るために、人と未来防災センターへ行き、震災の恐ろしさと防災・減災について学びました。



当日は班全員で名古屋市港防災センターへ赴き、来場したお客様に妖怪手帳を配布しました。手帳の防災妖怪を探してキーワードを集めると、景品がもらえます。私たちも探すのを楽しみながら、お客様の妖怪探しのお手伝いをしました。来場者は800名近く、配布した手帳は310冊になりました。

私たちが企画したワークショップは午前と午後各1回行いました。子どもたちは声を出したり、体を動かしたり、始終楽しんでくれました。また、2回目の公演では、子どもたちにクイズの答えを選んだ理由をたずねたところ、元気に発表してくれました。最後に子どもたち全員に私たち手作りの防災妖怪のメダルをプレゼントしたところ大変喜ばれ、保護者の方に誇らしげに見せている子もいました。保護者向けのアンケートからも、子どもたちがワークショップを楽しみ、防災に興味を持ってくれたことがわかりました。



名古屋市港防災センターの方々からはイベント前後、最中もとても暖かいお声がけをいただきました。このような貴重な経験をさせていただいたことに、心から感謝申し上げます。

「防災ウォッチ！2」での防災班の活動は後日、神戸新聞に取材いただきました。新聞に掲載された記事を見て、イベントのお声掛けや防災ウォッチについてのお問い合わせを何件もいただきました。

その一つに兵庫県庁復興支援課からのお声掛けがあり、11月15日(木)のひょうご安全の日推進県民大会 総会・県民大会に出席しました。県知事を含む約150名の出席者の前で、防災班の活動を発表しました。発表後に防災に取り組む方々とお話することもでき、私たちの活動を知ってもらえるすばらしい機会となりました。



また、防災劇公演の依頼もいただき、12月10日(月)には西宮市立上ヶ原幼稚園で、1月26日(土)には神戸市立有瀬児童館で公演を行いました。幼稚園で公演するにあたり、園児にも伝わるよう事前に

幼稚園の先生方にご指導いただき、劇の内容がよりブラッシュアップされました。その成果もあり、園児たちは最後まで飽きることなく笑顔で参加してくれ、先生方からお褒めのことばをいただきました。

有瀬児童館では小学生にむけて劇に加え、新しく考案した防災ウォッチを使ったゲーム、妖怪はないちもんめを行いました。はないちもんめをしながら、



危険な妖怪とそれに対応できるおたすけ妖怪のペアを作っていくゲームなのですが、私たちが思い

もしなかったペアを考えてくれました。最後に防災妖怪図鑑『防災ウォッチ』を配付したところ、興味津々で読んでいました。

## ●ぼうさい宝探しゲーム&

### 非常食を食べてみよう●

(日時) 2018年12月16日(日)

(場所) 西宮市立高木公民館

(対象) 小学生親子

(人数) 子ども9名+大人7名

(学生スタッフ) 5名

名古屋のイベントで他のブースを回ったり、9月に災害ボランティア養成講座に参加して、非常食や災害時の行動について、知識を深めました。学んだことを活かして、私たちは自主企画のイベントで非常食の試食を考えました。ローリングストック法では消費期限の近い非常食を平常時に食べますが、そのとき手軽に美味しく食べられる調理法を実践することにしました。また、防災ウォッチを使った新しいゲーム、「暗闇宝探しゲーム」と「妖怪を探そう！神経衰弱対決」を考えました。



当日は参加者を二つのグループに分け、「暗闇宝探しゲーム」と「妖怪を探そう！神経衰弱対決」を交代で行いました。「暗闇宝探しゲーム」は地震発生後停電で真っ暗になった部屋を体験してもらうことを狙いにしました。暗い部屋で小さなペンライトの明かりをたよりに妖怪を探し、その近くにある

宝箱から宝物をとってくるゲームです。探す妖怪はくじ引きで決めました。みんな宝物の妖怪キャラクターメダルをゲットすることができました。

「妖怪を探そう！神経衰弱対決」はトランプのかわりに私たちが作ったカードを使います。危険な妖怪とそれに対応できるおたすけ妖怪がペアになります。みんな私たちの説明をしっかりと聞いて、ゲームを楽しみながらペアを学んでくれました。



昼食に、非常食をアレンジしたやきとりおにぎりとツナの和え物を作って食べました。アルファ化米と缶詰、乾物など長期保存がきく材料を使って調理



を行いました。こちらは一緒に参加して下さった保護者様にも、保存食の美味しい食べ方を知ることができたと喜んでいただきました。

イベント後の保護者向けアンケートでは、ご家庭で防災について話し合おうと思った、という声が多数ありました。子どもたちも、防災に興味を持ったと回答してくれました。私たちのイベントがきっかけで、ご家族みなさまの防災意識が高まり嬉しかったです。



私たちがイベントを行うにあたり、防災についての知識はもちろん、子どもたちへ伝わりやすい言葉の選び方や表現方法を学びました。西宮市小学校区防災訓練の子ども防災コーナーも5回担当させていただき、何度も子どもたちと接することができました。おかげさまで、自主企画のイベントでは自信をもって子どもたちに対することができました。ご指導いただいた西宮市防災啓発課の皆様や、NPO法人災害ボランティアネットワークの皆様、上ヶ原幼稚園の皆様にご心より感謝いたします。また、新聞の記事をご覧になってご依頼をくださった皆様、私たちの活動の幅を広げる機会をいただき、ありがとうございました。